

新青森市史

通史編第三卷

近代

「県都」揚々



編集 / 青森市史編集委員会

発行 / 青森市

2014年3月31日発刊

吉田初三郎「青森市鳥瞰図」昭和7年

(市史編さん室蔵)

編集方針 本巻は、すでに刊行している『新青森市史』資料編6近代(1)と資料編7近代(2)の2冊の資料編をもとにした通史です。一昨年刊行の『新青森市史』通史編第二巻近世を受けて、明治4年(1871)の廃藩置県と県庁の青森移転(「県都」青森の誕生)から、昭和20年(1945)7月の青森大空襲、そして8月の終戦に至るまでの時期を叙述の対象としています。

藩政時代の「商都青森」が「県都」となることで、都市としての性格を大きく変えることとなります。その意味では、青森がいかにして近代都市へと脱皮したのか、ということは本巻の大きなテーマであるといえましょう。しかもそれは、県庁移転のみならず、この青森という地域が青函航路の開設などを契機として、北日本における枢要な交通・流通の拠点に位置づけられたことが背景にあります。本巻では、こうした問題意識のもとで、「県都」青森の歴史像を明らかにするよう心がけて編集しました。

本巻の内容と特色 本巻は、こうした編集方針にもとづいて、全体を3章でもって構成しました。藩政時代の政治の中心地(藩庁所在地)が、青森のように、近代になってほかの都市へ移るとするのは全国的に珍しい事例といえます。そのため、近代青森の歩みは決して平坦ではなかったものの、一方では伝統や習慣に縛られない進取の気性に富む人材を多く輩出する土壌が醸成されたといえるでしょう。本巻の歴史叙述を通じて、そんな「青森らしさ」などを感じ取っていただけるのではないかと思います。

発刊の意義



昭和初期の大町通り(市史編さん室所蔵絵はがき)

『新青森市史』通史編(全4巻)は、原始から現代まで続く「通史」であり、しかも、「昭和の大合併」以前の旧町村部の歴史叙述を含んだものとしては、初めてのものです。

本巻は、そうした旧町村部の歴史叙述についても可能な限り盛り込むことで、本市の歴史叙述に深みを持たせることができました。本巻の叙述を通じて、「県都」青森の歩んできた道のりを、より身近なものとしてとらえることができると思います。

- 閲覧できる所 市民図書館・各市民センター・県立図書館・働く女性の家(アコール)
- 販売している所 成田本店・よしのや本間・中世の館・歴史資料室
- 販売価格 5,280円
- 問合せ先 青森市民図書館歴史資料室 TEL017-732-5271

